

2025年度入試解説（国語）

1

(1) 正解 十六万人前半

青森県の総人口は、1983年の約153万人をピークに減少が続いていて、昨年
の2月1日時点で、120万人を割り込んだそうです。2016年4月と比べると、県内
の全市町村の人口が減少しました。弘前市では17万人半ばから16万人前半になりま
した。

(2) 正解 2 （他の選択肢は傍線部で述べられている）

一つは働く場の問題です。都会に比べ（4）働く場の選択肢が極端に少なく、給料な
どの待遇も低い。生活が安定しないので子供を育てることに不安があります。ま
た、自分が望む生き方の実現も難しい。

二つ目としては、（3）ショッピングや食事を楽しむ店や、コンサートなどの体験の
機会が多く、たくさんの人が集まる首都圏への憧れ、（1）狭い人間関係や古くからの
ジェンダーによる束縛による生きづらさのある環境からの解放です。

これらへの対策は大変難しい問題です。青森県や各市町村は、さまざまな子育て支援
や県内企業の魅力発信、移住・定住促進事業や農作物のブランド化などの対策を重ねて
きていますが、減少が続いています。

(3) 正解 3 （他の選択肢は傍線部で述べられている）

これらへの対策は大変難しい問題です。青森県や各市町村は、（1）さまざまな子育
て支援や県内企業の魅力発信、移住・定住促進事業や農作物のブランド化などの対策を
重ねてきていますが、減少が続いています

人口減少の対策としては、これまで青森県などが取り組んできたことのほかに、実際
に地域に住む「定住人口」ではなく、都市に住みながら地方に関わる（4）「関係人
口」を重視する取り組みの提案もあります。季節のイベントや休暇でたびたび訪れた
り、その地域に友だちがいたりする都市部の住民とのつながりを広げることで、長期的
には地域の活性化や新たなビジネスチャンスにつながるという考え方です。

また、住宅・交通・公共サービス・商業施設などの生活機能を集約し、（2）効率化
するコンパクトシティなどの提案もあります。

人口増加と経済発展を前提とする社会制度の見直しは必要です。

（2）デジタル技術の活用や生活機能の集約とこれまでの分散のバランスの検討も必
要だと思います。

(4) 正解 国民総幸福量 / ウェルビーイング (SWGs)

これまでと異なる価値観による社会作りも大切です。ありあまる物質的豊かさや便利
さを追求し続けていっては地球規模で破滅してしまいます。また、社会は効率を追求し続
けてきましたが、その結果は、さらにやるべきことが増える社会でした。

ブータンという国では、国民総幸福量という考え方があります。物質的・経済的な豊
かさだけでなく、精神的な豊かさを重視し、人と人、人や自然との関係性を求める考え

方です。

また、1925年ころから議論されはじめ、世界保健機関（WHO）等が定義する「ウェルビーイング」という価値観があります。

「人生への幸福感や満足感」「うれしい、楽しいなどの感情」や、平均寿命、生涯賃金、労働時間や人と関わる時間などが指標となります。SDGsが掲げる未来は2030年までなので、次なる目標として、「SWGs(Sustainable Well-being Goals)」が急速に注目を集めています。

3

問一 正解 ③

「能陷」の二字を挟んで「莫」に返るので「一・二点」を用いる。「一点」の付いた字から「二点」の付いた字に返る。当然、「一点」の付いた字は下に、「二点」の付いた字は上にあることになる。

問二 正解

吾 矛 之 利、於 物 無 不 陷 也。

レ レ レ

「レ点」は一つにつき一字上の字に返ってよむ。連続して付く場合は、一字ずつ順番にさかのぼっていく。

問三 正解 こたうるあたわざるなり。

「応ふる」の「ふ」、「能は」の「は」が歴史的仮名づかいなので、それを現代仮名づかいの「応うる」「能わ」に直す。

問四 正解 ④

「盾」と「矛」を売る者が、自分の商品の長所を誇張するあまり、話のつじつまが合わなくなってしまったお話である。

4

問一

傍線部8「ぼうぜん」は、あつけにとられているさまを表すので、正解は①。

傍線部9「そっけなく」とあるが、「そっけない」の意味は「思いやりがないさま」

「温かみを感じられないさま」等であるため、そこに最も近いものを選ばばよい。よって、正解は②。

問二

【 X 】直前に「やったー」とあるので、喜びの叫び声を表す④が正解。

【 Y 】直後に「詰まった」とあること、「最初から机の上に出ていたオレンジとハッカのドロップスは、赤い缶に入りきらなかったぶんだったのだろう」とあるため、隙間もなく入っていることがわかる表現を選ばばよい。よって、正解は③。

問三

①「たっちゃんが『わたし』を探していた」という記述は本文にないため、誤答。

③「両親やヒデおばとゲームをしたがる」という記述は本文にないため、誤答。

④「入院してしまう前に会わせてあげたい」という記述は本文にないため、誤答。

問四

「直喩」…「みたいに」「～のようだ」を使って他のものに例える。「隠喩」…「みたいに」「～のようだ」を使わずに表現する。「擬人法」…人間以外のものを人間に見立てる。「体言止め」文の末尾を名刺や代名詞で終える。傍線部は「みたいに」を使っているため、正解は①。

問五

「インナイガッキー」は、たっちゃんの台詞中にあることを踏まえて選ぶ。

- ①「手術が成功するかどうかわからない戸惑い」は、たっちゃんの様子からは読み取れないため、誤答。
- ②台詞中に「びょういんのなかのがっこうなの」とあるので、「何をするとところかがわかっていない」は合わない。よって、誤答。
- ④「転校することの悲しみ」は、たっちゃんの様子からは読み取れないため、誤答。

問六

「気配」は、「けはい」。「気」を「け」と読むものを選ぶ。

- ①しき ②いやけ ③きりよく ④きこつ
- よって、正解は②。

問七

- ②「ゲームが好きなたっちゃんにとって失礼な行為」という記述は本文にないため、誤答。
- ③この時点で、「『わたし』とヒデお婆の秘密」と言えるものはないため、誤答。
- ④「ヒデお婆がお父さんとお母さんから責められる」ことを「わたし」が心配している記述は本文にないため、誤答。

問八

ヒデお婆が「たっちゃんの欲しい味のドロップスが出たら手術が成功する」というゲームを行い、実際に欲しかったブドウのドロップスが出た時にたっちゃんのお父さんとお母さんは喜んだ。たっちゃんの手術の成功を思わせる結果になったことに喜んでいるのである。したがって、「もう一度」とあるのは、次は本当に手術が成功して喜ぶシーンを想像していると捉えるのが自然。

- ①「ゲームのことを思い出す」だけでは喜ばしい場面かはわからない。「手術の成功」という要素がないため、誤答。
- ②傍線部より前に、「何週間か、何カ月か、何年先かわからないけど」あるため、「一回で手術が成功し」という記述と合わない。よって、誤答。
- ③大人になるまでたっちゃんに会えないわけではないので、誤答。

問九

赤い缶にだけ入っているため、本来なら出ないはずのはずのブドウのドロップスが、ヒデお婆の持っていた緑の缶から出てきたことを奇跡と言っている。

問十

- ①ヒデおばはたっちゃんの欲しいブドウのドロップスが出ることをわかっていてゲームをしているので、合致しない。
- ②「院内学も初めてで不安でいっぱい」という部分が合致しない。
- ③「会えなくなることが寂しい」という記述はないことと、「ゲームにしないで」と願った理由は別のところにあることから、合致しない。
- ⑤ヒデおばは「たっちゃんのためにブドウしか入っていない缶を探して買って」きたのではなく、赤い缶に入っていたブドウのドロップスを緑の缶に詰め替えているの。よって、誤答。

5

問一 四字熟語「単刀直入」の「単」が正解。「ひと振りの刀」という意味で「短刀」ではないところに注意。

問二 挿入文の「この傾向は…」の指示語に注目します。【⑤】の直前にある「音程の上下が少なくなる傾向にあります。」を指しています。

問三 図表1と本文を対応させて読んでください。

- A 「悲しみ」のテンポ(速さ)は【遅】
- B 「悲しみ」の音量は【小(大きくない)】
- C 「楽しさ」の音程の上下幅は【大】
- D 「楽しさ」の高さの変化は【上】

以上から②が正解となります。

問四 「怒り」のときの「速さ」・「音程」・「音程変化の向き」を考えてください。感情がたかぶって、怒っているときは【速く】【高い音程】で【上向き】になるのが自然です。

問五 傍線部「やはり重要なのは喋り方との共通点なのです」から「長調のメロディ」と「短調のメロディ」と「喋り方」の共通点を考えます。傍線部を含む形式段落の内容は次の通りです。

- ・「長調は明るく短調は暗い」と言われている。
 - ・長調のメロディは楽しいときの喋り方と同じく音程の上下が大きくなる傾向
 - ・短調のメロディは悲しいときの喋り方のように音程の上下が少なくなる傾向
- つまり、曲も喋り方も、明るさ・暗さを表現する音程変化は同じであるということ

音楽において重要なのは音階の上下幅ではなく
→音程(音階)の上下幅の一致が重要です。

- ② 音階やリズムのとり方が重要なのではなく、
→音階やリズムが喋り方に似ていることが重要なのです。
- ④ 「長調が明るく短調は暗い」理由が「話し方に似せて作られているから」とは述べていません。

問六 傍線部の直後に「それを理解するうえで重要なのは、私たち人間が他人とともに社会生活を送っていることです。他人と一緒に生活するうえでは、他人の感情を気になさなければなりません。」とありますから、正解は「①人間にとって音の調子から感情を推察するというのは社会生活を送るうえで非常に重要なことだから。」です。

「④現代人のDNAにも受け継がれている」は、本文にない内容です。

問七 「感情伝染とは、他人の感情のサインを知覚することで、自分もその感情に近い状態になるというものです。」とありますので、「感情に影響を受けず」と述べている②が「感情伝染」の例として不適當です。

問八 「類似性知覚は、私たちの思考や意志とは無関係に勝手に働いてしまうものです。」ここでいう「無関係」「勝手に働いてしまう」というのは、自分の意志に関係なく自然に働くということを意味しています。

問九 (^_^)という顔文字は、「笑った時の顔(6字)」「嬉しいときに作る笑顔(10字)」と同じ特徴を持っています。同意の解答は可です。

問十 傍線部⑥を含む段落から順にみていきます。

a 類似性知覚は、私たちの思考や意志とは無関係に勝手に働いてしまうものです。

b こういった制限は聴覚以外にもあります。

c だからこそ、自分の感情を表現しようと思ったらこの仕組みを利用せざるをえません。

d 音楽も同様です。演奏に関しても同じです。(II)の法則を利用しなければなりません。

傍線部分がすべて「類似性知覚」を指しています。

問十一 【資料Ⅰ】の「ナレーター」の語りと【資料Ⅱ】の「ナレーターありの演奏はその背景が想像しやすく楽しく聞くことができた」という内容から、「Aさん 特徴的なのは『ピーターと狼』には、ナレーターが作品の場면을直接的に説明していることだね。」は正しい。

【資料Ⅱ】で「話の色々な場面が出てきて音だけで楽しくなったり、不安になったり、怯(おび)えているように聴こえてきてとても面白かったです。」と書かれているが、それがBさんの言う感情伝染が起こりやすくするための工夫」であるとはわからない。

Cさんの語る「私はこの曲を動画で見たことがあるわ。紙芝居のようにアニメーションが挿入されていてとても面白かったのよ。」は、資料の「ピーターと狼」のことを話しているものの、内容を正しく捉えていないとは判断できない。

DさんはCさんの発言を受けて、「音楽と映像を両方使うという伝え方もあるんだね。たしかに、感情伝染は視覚情報からでも働くものね。」と話している。感情伝染が視覚からも働くのは(^_^)の絵文字でも解答済みで正しい。

再びBさんが登場して、「音を聴くだけの鑑賞の仕方はもう古いと思うな」と語るが、「新しいとか古い」といった内容は、本文や資料を正しく捉えていない内容である。さきほどの不明確な回答は、やはり誤った内容だと判断できる。

Eさんが「そんなことはないよ。感想を読むと、子どもを慈しむ感情を起こす音響

的特徴はちゃんと伝わっているようだし」と話すのは、【資料Ⅱ】の「たとえ宗教が違っていても子どもを大切にしているということを知ることができました。」を踏まえていると考えられるが、本文の【図表Ⅰ】を見ると、「慈しみ」の感情は音響表現の中に入っていない。従ってEさんも内容を正しく捉えていないと言える。

以上から、正しく捉えていないと判断できるのは、BさんとEさんの二人②である。